

童

2017年10月8日

ようやく秋晴れの気持ちいい日々を体感できる日がきています。と言っても11月。まだ、稲刈りの終わっていない田んぼがあり、不思議な光景です。これを見ても今年の天候の不順さがわかりますね。

大地も、先日、子ども達のお陰でようやく稲刈り脱穀作業が終わり、秋の作業の気持ちの整理が出来ました。そして、やっと大地の周囲の紅葉を味わえるゆとりができています。

この春、取得開墾した大地の裏山。夏の見事なひまわり道路を満喫したのに引き続き、予想以上のもみじ林の紅葉。過去 杉林に囲まれた中でモミジが多数茂っているのは確認していましたが、今春杉を伐採してそのペールを剥いだ秋、見事な美しい世界を醸し出してくれました。林全体がぱっと明るくなって輝いています。毎朝スタッフミーティングで事務室からこの眺めを堪能する幸せ感、その気持ちで1日をスタートし、子ども達を迎える気持ちをとっても安らいだ幸せな気持ちにしてくれます。

子ども祭りで子ども達がヘンゼルとグレーテルツアーで列になり、この林に入って行く光景、紅葉と青空と秋の光と輝きを背景に、白い山羊達が丸太橋を登っていく舞台、乳児から大人までこの林の中では、とても穏やかな表情をしていました。素晴らしい情景です。

紅葉も終盤になりましたが、まだまだ楽しめそうです。ぜひ、大地のかさこかさこさ落ち葉を踏みしめながら、もみじがりを楽しんで見て下さい。

そして、今度は冬景色が更にどんな風になるか楽しみです。



【大地 子ども祭り】

日頃から自然との調和を目指す、自然の流れに任せるなどと豪語して、雨でも風でも登山や運動会や脱穀も楽しむという青ちゃんも、子ども祭りの一週間前は天気予報が気になっていました。お祭り前までの2週連続で時期外れの台風がやってきて、秋晴れや秋を感じる事が出来ない日々が続いていました。天気予報では、お祭り当日は雨時々曇り。顔には出せない不安な日々でしたが、直前2日前には、晴れの予報となり、前日には、雲の動きを見て、当日は晴れと確信しました。

そんな幸運な天気と保護者の皆様の日々継続した熱い想いと努力、勤勉、創造、発想、ご協力の数々のお陰で、素晴らしい子ども祭りとなりました。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

「地球にやさしい」という私たちには、時には重荷であり大風呂敷を広げすぎていると感じてしまうテーマ。でも、それに向かって小さくても出来る努力姿勢に胸を張ろうと思ってきました。そして、青ちゃん個人で心に浮かんだことは、同時に「お互いにやさしいこと、理解すること」でした。

あるプロジェクトや企画を進める場合、共通のミッションや目標を目指して行く上に、担当ごとにグループ分けなどをします。全体で一つ一つ考えるよりも、分担制グループ分けをした方が効率がいいですし、得意な者同士楽しく進む事が出来ます。かなりの利点があります。しかしながら、効率や便利の裏には必ず落とし穴があります。それは、食品や料理や暮らしの中でも気づきますね。幼稚園や小中高などの学校においても「隣のクラスは何するものや？」という治外法権を感じたことはありませんか。ミッションを共有している私立学校はまだいいにしても、青ちゃんの経験からして、幼稚園保育園をはじめ学校で、同じ学年でも、その先生により明らかに違う教育をしている（例えば、こちらはたくさん本を読んであげている、こちらは勉強ばかりなど）。全てその先生の裁量に任せており、お互いに口を出そうとしない、お互いのプライドがあり、敢えて口に出そうとしない。自分のクラスだけを良くしようと努力して行く姿勢、それだけ頑張っているから、他者は口を出さない、出せないという傾向を感じました。それでは、共通目標、ミッションが全体として達成出来るだろうか、クラス替えになった場合は、子ども達はどうか。真に子ども達の事を考えた場合、その共有ミッション達成のために、切磋琢磨、お互いに気づいたことを共有して指摘し合う、学び合う事が、自分のプライドよりも優先されなければならないと痛感しました。そんな想いもあり、大地はクラス分けも担任制もないのも一つの要因です。

話は逸れましたが、子ども祭りの企画を進めていく上でも、洋食班、和食班、餅つき班、人形劇班、共有として、手作りマーケットなどに分かれました。旅行やお祭りなどの楽しさは、その過程（旅行前の計画や探索などは楽しいですね）にありますし、当日充実感はそのまでの過程で決まりますね。（日頃の合い言葉 **本当に楽しいことは決して楽な事ではない**）食品は自分のグループだけで企画準備調理販売、人形劇はクラブ員だけが練習本番 手作りはそれぞれ個人で製作し、皆で値札レイアウト、ヘンゼルグレーテルはそれぞれ担当者だけが準備設定実行、足湯、飛行機飛ばし、竹筒パンはそれぞれ担当者、地味な受付駐車場も担当者。それぞれその担当部署でそれだけをこなせばプロジェクトは進んでいきます。が・・・「そんな事やってたんだ」「忙しくて、他を全然見れなかった」「誰がどこでやったの」などなどの言葉が終了後聞かれたら、これは残念ですね。こんな小さな幼稚園においては、本当ならば全員で取り組む事が理想（本当にわかり合えるコミュニティ人間関係が構築される）ですが、その理想を目指してぎりぎりグループ分けして進めていく事を選択しています。自分のグループいわばクラスだけをよくしようとしたら、限りなく自分の所だけががんばればいい、やればやるだけ楽しいし、盛り上がる、そうしていけば、今度は、他者が眼に入らなくなっていく、そうすると、その結末はどうなるのでしょうか・・・

他者の努力や進行を見る、理解する、そして、手を差し伸べたり、お手伝いする、逆に受け入れる方も、その想いを受け止め、お願いする、甘える、時には意見を聞いたり助言を求めたりする。それは、真の意味での思いやりや優しさ。今回のテーマである「地球に優しい」の大前提である「人に優しい」であると考えました。（もちろん、大地の皆さんはそんな懸念は必要ないと思っていますが）

青ちゃんが、皆が忙しい最中、「何時までに終了して下さい」「目標はこの日までです」「午後は、ヘンゼルとグレーテルツアーに行きます」「人形劇を見ます」などともんでも無いことを言って、たぶん「自分の担当部署、担当仕事が忙しいのに、そんなことしている暇が無い」なんてかなりざわついていたのではないのでしょうか。えらくせかしているなあと感じられたことでしょうか。しかし願いは、皆でお互いの努力過程を手を休めてでも相互に共有して欲しい、皆同じ土俵で同じミッションを共有してそれぞれの進行状況などを確認したりすることが、皆で作りに上げていくお祭りを体感でき、充実感あふれるものになるし、地球へのやさしさ、それは環境への優しさだけでなく、そこに暮らす人間への優しさが必要不可欠だからです。もちろん余計なお世話だったかも知れませんが、すいません。

手前味噌ですが、その結果が、平和の鐘のコーラスの歌声に繋がったと確信しています。大勢の方々から、最後のコーラスは良かった！！と絶賛されました。全ての保護者が一度も全体練習しなくても（特に男性）歌声が一つになったからです。人は仲がいいから一緒にご飯を食べるのではなく、ご飯を一緒に食べるから仲が良くなる。仲が良いからお祭りを企画したのではなく、お祭りを企画したから仲が良かった、まさに子ども同士の出会いと同じです！！

